



# 水っ子新聞

- 水と遊ぶ、水に学ぶ -

http://www.kodomo-mizu-machi.acrweb.com

Mizukko News

発行所：世界子ども水フォーラム・京都

〒604-8252 京都市中京区醒ヶ井六角下ル越後突抜町311

TEL: 075-231-5360 FAX: 075-212-9211

発行人：世界子ども水フォーラム・京都代表 嘉田由紀子

e-mail: kodomo-mizu-machi@acrweb.com

水フォーラム版

## 「水は命」歌声に乗せて

川と湖の未来たちコンサートin 京都精華大学野外水上ステージ



交流コンサートを開催した。だんだんと終わりに近づくとつれづれ皆気持ちひとつになり、共に笑い合い、歌い『水は命だ』と世界に訴えた。加藤さんも深みのある、これもまた何かを訴えかけるような歌声で、世界中の子どもたちに感動を与えた。

言葉が通じなくても、人は心を通じ合うことができる。それをこのコンサートは立証したのだ。歌は国境を越えて、人々を結び付けてくれる、そんな力があるのだということを実感した。子どもがきちんとした場をかりて意見交

換をし合う、世界子ども水フォーラム。私たち子どもが出した結論として、子どもは大人に教育されるものではない。子どもだからといって、大人に何を教えられないというのだろうか。子どもと大人は対等なのだ。

今まで私たち子どもの意見に耳を傾けなかった大人たちに、この世界子ども水フォーラムは『子ども=大人』という水問題解決への公式の種を、春の訪れと共に国境を越え、歌声にのせて運ぶことができたのだ。

この種が成長し、花が咲き始める頃、大人と子ども、それぞれができることをし、協力しあうことで水問題解決への道を世界中が歩めるようになっていくといいなと思った。 松田里絵(14)



### 生きている琵琶湖をうたったよ!

今日ぼくはおわかれコンサートにいきました。加藤登紀子さんが生きているびわこをうたいました。生きているびわこのうたはいちばんだけしかしかなかったけど、にばんもありました。水とさかなととりとほたるがでてくるうたです。ぼくは生きているびわこをうたいました。学さんがかたぐるまをしてくれました。加藤登紀子さんと外国の人がいっしょにうたっていました。さいごはみんなおどってうたっていました。ぼくは学さんと田中くんのあたまをたたいてうたいました。コンサートはとってもたのしかったです。生きているびわこのうたがもっともっとすきになりました。上村明俊(7)



学さん：スタッフの小学校教諭 田中くん：子ども特派員の一人

## 私たちの種

世界子ども水フォーラム

3月22日、加藤登紀子さんと京都の子どもたちが32ヶ国の109人の子どもたちを迎えて、世界子ども水フォーラムファイナル

## たくさんのお出会い

世界子ども水フォーラムinラフォーレ琵琶湖

「知ってる人1人もおらへんやん。」世界子ども水フォーラム初日に宿泊地のホテル、ラフォーレ琵琶湖に着いた時に思った一言だった。

食事の後、ある1人の小さい男の子が手を出して近寄ってきた。明らかに外国人で、非常に派手な民族衣装を着ていた。握手をし、その後にはいきなり抱きつくような感じであった。僕を全く知らないのに.....と正直かなり戸惑った。その時には、彼が戦争で厳しい状況にあるアフガニスタンから来ていることや、ルームメイトだとは思ってもしなかった。

ホテルでは日本人2人、アフガニスタン人1人、そしてアフリカ人3人に取材をした。質問は「水問題として一番重要視すべきものは何か」と「その解決法は」というもの。アフリカ人の一番重要視すべきことは「トイレ」と「洪水」の問題であった。日本人は「ダム」とふたりとも答えてくれた。

面白かったのは、アフガニスタン人、アフリカ人とも「あ!」「あ!」というように猛スピードで解決法を挙げてくれたのに、日本人ふたりは「ううん...」と結構迷っていたこと。それに加えて、日本人は「水の危機に関する意識を高める」、「ダムの副作用を日本の皆に訴えかける」等の非常に大きな面での解決法を取り上げていた。外国人は「蛇口の水を数時間切ってみて政治家たちに水の大切さを思い知らせる」や、「子どもだけで組織・グループを作り、洪水の時は救助にあたる」といった具体的な解決法が多かったと思う。

では、なぜそのような差ができるのか。

それは現場の状況をどれだけ知っているか、ということが関係するように思えた。

アフリカ、アフガニスタンの人々は水問題自体、自分たちの暮らしに非常によく関わっている。毎日経験して問題をよく知っているから解決法も早く考えられるのだと思う。改めて本や資料の「知識」よりも「経験」が大切だと実感した。

今まで、人間の行動により色々なことが関連して環境が悪くなったけ

## 「5人に1人、水は宝」



れど、これらは修正できるもので、人間自身が動けば問題は全部解決できると思っていた。

しかし、この世界子ども水フォーラムを通して、すべての問題を解決して「なし」にすることは不可能で、ただ「なし」にできる限り近づけられるのが人間だと自覚することができた。

例えば、洪水から人々を守るために堤防をつくった。しかし、地盤沈下などで堤防をさらに高くしてより安全にすると、今度は逆に崩壊したときの危険性が問題とな

る。危険性が問題だからと言って堤防を無くすと洪水で大被害が起こる。だからといってさらに高くしても危険性が増し、それ以外のものをつくるにも莫大な費用が必要である。といったように、1つを解決すると、新たな問題が生まれるのである。

つまり、私たち人間は数千年前の人間のように生きるのではなく、生きるために技術を向上させながら生きる場合、絶対に何らかの問題を抱えて生きていかなくてはならない。その時、私たちができることは人間・環境にとって「いい」にできる限り近いものをつくり、同時に変えていくことである。

水問題とは「起こる」ことでもなく、「起こった」ことでもない。今、世界中で「起こっている」ことである。5人に1人、安全な水を確保できない。「水」が宝物という人がいるのである。

イラク戦争といった人間を殺すアホらしいことに数億円使えるのなら、なぜ水問題にそのお金を使わないのか、僕には疑問で仕方がない。

今回、このフォーラムに集まった109人の子どもが自分の国に戻り、活動を起して欲しいと願い、自分自身活動を続けよう決心し、また第4回世界水フォーラムでも「子ども水フォーラム」を開催して欲しいと思った。この5日間、文化の違いに仰天する毎日であり、仲間を増やせ、協力しあえた毎日だったと思う。仲間になれた109人と子ども、スタッフ・保護者とまたいつか会って「ガンバ」と言いたい。

山田諒(14)

### 22日世界子ども水フォーラムファイナルコンサートでのスピーチ

平成15年3月

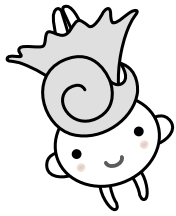
第3回世界水フォーラムのプログラムとして、3月20日、21日の2日にわたって世界子ども水フォーラムが開催されました。この会議では、世界32ヶ国から来た109人の子どもたちが、「安全な水の確保」、「学校と衛生」、「水にまつわる危機」、「水と自然・遊び・文化」の四つのテーマに分かれ、「何が問題なのか」、「私たち子どもは何をするのか」、「政府はどのような義務を負っているのか」という点について議論しました。

その結果、私たち子どもがすることには「水、衛生、衛生習慣に関する子どもと若者のグローバルな同盟を作る」などがあり、政府の義務としては「先進工業国、発展途上国の間で家庭での水の確保に関する情報、技術、経験を自由に交換し、共有する事を奨励する」ということがありました。

しかし、私たち子どもが今回のフォーラムで一番訴えたかったことは、「子どもは大人に教育される対象ではない。大人と共に、社会を築いていく対等の仲間である」です。

山田諒(14)





# Mizukko News

Water and Children

Children's World Water Forum KYOTO

311 Echigo-tsukinuke-cho Rokkaku-sagaru  
Samegai-dori Nakagyo-ku Kyoto, 604-8252 JAPAN

Tel: 075-231-5360 Fax: 075-212-9211

Publisher: KADA, Yukiko

E-mail: kodomo-mizu-machi@acrweb.com

WORLD WATER FORUM EDITION

http://www.kodomo-mizu-machi.acrweb.com

## 海外から日本中からの友達に出会って



4泊5日の世界子ども水フォーラムに参加して、1番困ったことは、言葉が通じないということでした。

京都からの参加者はみんな同じ部屋だと思

っていたのに、はなれてしまい、とても心配でした。部屋に電話がかかってきたけれど、英語だったのでホテル中、スタッフの人を探し回りました。

他の部屋に遊びにいこうとノックして入ると、アフガニスタンの人に指をさされて、すごくこわい顔でにらまれたので、こわかったです。言葉が通じなかったら、気持ちが伝わらないと思ってしまいました。でも、同じ部屋になった、ベトナムの人や、マラウィから来たセオドラ・マラータさんとは仲良くしないといけな

4日目の朝にねすごしてしまったときに「朝ごはんおわった?」とジェスチャーしてみると、「私は食べたよ」と伝えてくれたのでしゃべれたなど安心しました。

15日に京都での歓迎会で出会った、ジョン・マテウエレ君が「マミ」と言ってくれたし、他の人も名前をおぼえてくれました。他の地方からきた人とも仲良くなりました。同じ日本語だけれど、少しずつちがっていたから、言葉がちがうということはたいたことじゃないんだなと思いました。私は世界中の人と友達になりたいと思っていたのでよかったです。 小林真巳(11)



## 心に響いたあのひとこと!



世界子ども水フォーラム

- 第3回世界水フォーラムの取材を終えて -

- 阿南愛香(14)** 「水ってやばい」野田岳仁さん(ユースウォータージャパン)の言葉。子ども特派員として、水のことについてもっと書いてみんなに読んでほしい。友達とかにも印刷されたパンフレットとかを見せて、解ってほしいと思う。
- 馬越法子(10)** 「湖の水や・川の水よりも、雨水を使うほうが病気になるにくい」「雨水利用」分科会にて。雨水はそんなにきれいじゃないと思っていたからびっくりした。
- 折笠彩佳(11)** 「一人が別にいいやと思って汚い水を流したら、循環するのもあって、それが川を流れて海にいて、その海の水が別の国にいて、別の国の川に流れるというようなこともある。一箇所でも水を汚くしていいと思う心があってはだめ」
- 上村真由佳(11)** 「先進国は蛇口をひねったら、きれいな水がすぐに出てくるのに、お店に行ってペットボトルに入った水を買っていて、途上国の人たちは水道の水よりも汚い水を飲んでる」「水と貧困」分科会にて。先進国と発展途上国の水の使い方の違いが、すごくあることにびっくりした。
- 北川あゆ(13)** 「美しい森が美しい川をつくる」安藤忠雄さんの言葉。ピンときた。私も前に植林活動に参加したんです。そういう風に木を大事に育てていくんだけど、一本の木でも100年かからなきゃ大きくなる。その1本の木を切るのであれば、100年使えばいいと思う。
- 木原茂喜(15)** 水に関する様々な知識や、各国それぞれの水問題があるということを理解することができた。今回学んだことは、一人ひとりが水問題と同時に衛生について考える場をつくるのが求められているということだ。
- 久保田梓(10)** 「アフリカの人たちはどんなに汚い水でも、飲まない生きていけない、その水を飲んで毎年5%の人が死んでしまう」イベさん(ナイジェリア水資源大臣)の言葉。日本の方がアフリカの人たちを助けてあげられたらと思いました。川に排泄物などを流さないよう、トイレをつくってあげるとか。
- 小坪恵理子(14)** 「洪水を防ぐには水に場所と空間を返してあげる」洪水オープニングより。自然に技術で打ち勝とうとしていた今までとは違う感じがした。
- 小林真巳(11)** 「汚れた川はどんどん汚れる」世界子ども水フォーラムより。汚い川には、みんながゴミを捨てるから、もっと汚れてしまいます。私は、みんなが川をきれいにする努力をしていきたいと思います。参加できてよかったなと思います。
- 清水裕史(14)** 「今は有限の資源に頼っているから、そういう文明を変えていかなくてはならない」水と気候変動分科会より。今だったら石油とか、いろいろな資源を含めてムダに消費している社会を変えていく必要があると思う。
- 立川友香(10)** 「ネパールの人は電気の使えない人が82%、使える人が18%で使えない人が多い。ネパールでは『長くもてる電気』をつくらうとしている」そういう電気をわたしもつくってほしいって思ったから印象に残ってる。
- 田代裕之(12)** 「夢を忘れずに。水は夢を運んでくれる」汚いと思いはなく、夢を忘れず、水をきれいにしていくためにがんばっていきましょう。そういうイメージがうかんだ。
- 田中俊行(11)** 「水問題は流域全てで考えなくては成り立たない」尾田栄章さん(第3回世界水フォーラム事務局長)の言葉。一人で考えるより、みんなで考えたほうが早く解決する。そういう感じがする。
- 谷村 瞳(12)** 「水はとてもおいしいもので、地球のみんながシャワーやきれいに手を洗えるようにしてほしい」アナンさんの言葉。わたしもみんなが充分そういうことができるといいな、と思った。
- 寺田怜史(14)** 「これは第三世界水フォーラムではない、第3回世界水フォーラムです」(アフリカの日・オープニング)ボツワナ大統領の言葉。日本での生活では感じにくいけど水問題は他の星の遠いことではない、同じ地球に今日も苦しむ子どもたちがいることを生の声で聞けてよかった。

- 徳永莉紗(14)** 「世界は川でつながっていて、川は国境を無視して流れていく」よく考えたら陸つづきの国とかは、上流が汚染されたら下流も汚染される。下流の人は迷惑するけど、上流の人が他の国のことは知らない、といったら大変。いろんな国で考えていかなきゃいけない問題なんだと思った。
- 中山湧太(10)** いろんな国の子どもたちが一緒に話し合っていて、すごいと思った。ぼくは、川や水の中にすむ生き物についてもっとよく知りたいと思う。
- 半田彬倫(12)** 「健康になるため、幸せになるためには、自分たちの手で水を管理し、大切にしていかなければならないという事をもっとみんなが学ばなくてはならない」水をあまり無駄づかいしないで、節約するって、自分で管理することだと思う。
- 増永亜美(14)** 「水っていうのは基本的人権のひとつ」世界子ども水フォーラムにて。貧しい国では水不足で学校にトイレとかの設備がなくて、女の子が学校に行きづらかったという話もあって、教育も受けられないって。教育を受けるって人権だから、そういうことも侵害されているということなんだと思いました。
- 松田里絵(14)** 「今できることは、子どもたち自身で考えること」八島さん(ユースウォータージャパン)の言葉。「今私たちにできることは何か?」という質問に、ほとんど人は「節約ですね」と答えていたが、大人の視点から見て、今、子どもができることからやってほしいと言っていたところに魅かれた。
- 松尾英将(14)** 「男の子は家を継ぐから教育を受けさせようとする家が多く、女の子はどうせ嫁に行くからと、何時間かかる水汲みに行かせることが多い」世界子ども水フォーラムにて。水と教育が関係していることを知ることができた。
- 林 友紀(13)** 「アメリカとか日本みたいに水道とか水施設を世界中の国につくることが、本当に大切で平和なことじゃない」わたしは今までそういうふうにしたほうがいいと思っていたけど、よく話を聞いて考えたらそれが本当にいいとは限らないのではないんじゃないかな、と考えるようになった。
- 平野響子(14)** 「世界は川でつながっている」アメリカ陸軍長官の言葉。情報の面で世界をつなげる、ネットワークを広げることが重要視されていると言っていたことを象徴していると思ったので印象に残った。
- 藤木翔太(10)** 「人間たちが汚した水は実際に自分たちで戻せる」(学校の近くを流れている)堀子川の場合は、ゴミがいっぱいほかしてあるから、1年に一回くらいゴミ拾いをしたらいいと思った。
- 山田 諒(14)** 「水にまつわる危機」についての話し合いで、アフリカの人たちからでてくる解決策が多かった。子どもたちが自分たちでグループをつくり被害にあったら対応するという意見など、現場を知ること、気が付くことが生まれてくると思った。
- 山崎里紗(9)** アフリカの人は水を汲んだバケツを頭の上置いて運んでいるけど、水道が管につながったら、水が多くなるのではないのに、水道料を払わないと水が出てこないから、貧しい人は水がもらえなくなって、かわいそうだなと思った。(加藤登紀子さんのお話から)
- 中村拓也(9)** 写真をいっぱいとれてたのしかった。外国のおおきな手の人とあくしゅできてよかった。
- 萬川 和(9)** どこの国かは知らないけど、他の国の人たちが水を大切にしているような絵があったのが印象に残った。
- 上村明俊(7)** さいごの日にはみんなで「生きている琵琶湖」をうたいました。ともだちがいっぱいできました。とくはいんは楽しかったです。またやりたいです。
- 小林佳代(7)** 国際会議場にたくさん外国の人がきていたからびっくりしたよ。「マイネームイズカヨ」っていえて楽しかった。水のこととこんなにたくさんの方がきたから、水はすごいなと思いました。また水フォーラムに行きたいです。

(順不同)